

教科書 p36 より

「 $\sqrt{a+ib}$  を、実部と虚部に分かれた  $\alpha + i\beta$  の形に変形しなさい。」

解

$$\sqrt{a+bi} = \alpha + i\beta \quad (0)$$

から  $\alpha, \beta$  と  $a, b$  の関係を求める。ここで、 $\alpha, \beta, a, b$  は正の実数とする。

両辺二乗して

$$a + ib = \alpha^2 + 2i\alpha\beta - \beta^2 \quad (1)$$

これより

$$a = \alpha^2 - \beta^2 \quad (2)$$

$$b = 2\alpha\beta \quad (3)$$

という関係が求まり、後は  $\alpha, \beta$  を  $a, b$  陽関数の形であらわせばよい。(2), (3)を二乗して

$$a^2 = (\alpha^2 - \beta^2)^2 = \alpha^4 - 2\alpha^2\beta^2 + \beta^4 \quad (4)$$

$$b^2 = 4\alpha^2\beta^2 \quad (5)$$

(4)に少し特殊な変形をして

$$a^2 = \alpha^4 - 2\alpha^2\beta^2 + \beta^4 = \alpha^4 + 2\alpha^2\beta^2 + \beta^4 - 4\alpha^2\beta^2 = (\alpha^2 + \beta^2)^2 - 4\alpha^2\beta^2 \quad (6)$$

ここで、(6)に、(5)を代入して

$$a^2 = (\alpha^2 + \beta^2)^2 - b^2 \quad (7)$$

となる。(5), (7)より、

$$(\alpha^2 + \beta^2)^2 = a^2 + b^2 \quad (8)$$

$$\alpha^2\beta^2 = \frac{b^2}{4} \quad (9)$$

仮定より  $\alpha, \beta, a, b$  は正の実数なので、(8)の平方根をとると

$$\alpha^2 + \beta^2 = \sqrt{a^2 + b^2} \quad (10)$$

を得る。ここで  $\alpha^2, \beta^2$  を解に持つ  $x$  の二次方程式を考える。

$$(x - \alpha^2)(x - \beta^2) = 0 \quad (11)$$

この方程式を展開し、(9), (10)の関係を使い  $a, b$  を定数に持つ方程式に書き直す。

$$x^2 - (\alpha^2 + \beta^2)x + \alpha^2\beta^2 = 0 \quad (12)$$

$$x^2 - \sqrt{a^2 + b^2}x + \frac{b^2}{4} = 0 \quad (13)$$

この方程式の二つの根が、 $a, b$  で表された  $\alpha^2, \beta^2$  となるわけであるから、これを解く。二次方程式の解の公式を使い、

$$x = \frac{\sqrt{a^2 + b^2} \pm a}{2} \quad (14)$$

となり、この解のうちのどちらかが  $\alpha^2$ 、どちらかが  $\beta^2$  となる。この判断は  $b=0$  としたとき 0 にな

る方 $\beta^2$ とすれば良く，結局

$$\alpha = \left( \frac{\sqrt{a^2 + b^2} + a}{2} \right)^{1/2} \quad (15)$$

$$\beta = \left( \frac{\sqrt{a^2 + b^2} - a}{2} \right)^{1/2} \quad (16)$$

となる。ここで， $\sqrt{\alpha^2 \pm \alpha}$ ， $\sqrt{\beta^2 \pm \beta}$ のうち $\alpha, \beta$ が正の実数になる方を採用することに注意する。

別解：

求める複素数を極座標表示で

$$\sqrt{a+ib} = \alpha + i\beta = r(\cos t + i \sin t) \quad (1)$$

とおくことができる。この  $r$  は複素数平面における動径をあらわし、 $t$  は偏角を表す。この式を両辺二乗してドモアブルの定理を用いると、

$$a + ib = r^2 (\cos 2t + i \sin 2t) \quad (2)$$

となる。よって、

$$a = r^2 \cos 2t \quad (3)$$

$$b = r^2 \sin 2t \quad (4)$$

となる。ここで 2 倍角の定理を用いると(3)、(4)式は

$$a = r^2 (\cos^2 t - \sin^2 t) \quad (5)$$

$$b = r^2 2 \sin t \cos t \quad (6)$$

となる。ここで、 $\cos t=0$  の場合を考えると、 $t=\pi/2+n\pi$  となり、 $2t=\pi+2n\pi$  となる。これは、 $b=0$ 、すなわち実数ということになるので以降の計算では  $\cos t=0$  の場合を除いて考える。すると(6)式は

$$\sin t = \frac{b}{2r^2 \cos t} \quad (7)$$

と変形できる。この式を(5)式に代入して、

$$a = r^2 \left( \cos^2 t - \frac{b^2}{4r^4 \cos^2 t} \right) \quad (8)$$

となる。この式を整理すると

$$r^2 \cos^4 t - a \cos^2 t - \frac{b^2}{4r^2} = 0 \quad (9)$$

となる。この式から

$$\cos^2 t = \frac{a \pm \sqrt{a^2 + b^2}}{2r^2} \quad (10)$$

を得る。これを(5)に代入して

$$\sin^2 t = \frac{-a \pm \sqrt{a^2 + b^2}}{2r^2} \quad (11)$$

(12)

を得る。ここで  $\cos^2 t > 0$  ,  $\sin^2 t > 0$  の条件から複号のマイナスは棄却される。また,  $a > 0$  ,  $b > 0$  の条件から  $\cos t > 0$  ,  $\sin t > 0$  で,

$$\cos t = \frac{1}{r} \left( \frac{a + \sqrt{a^2 + b^2}}{2} \right)^{1/2} \quad (13)$$

$$\sin t = \frac{1}{r} \left( \frac{-a + \sqrt{a^2 + b^2}}{2} \right)^{1/2} \quad (14)$$

となり,これを(2)式に代入すると

$$\alpha = \left( \frac{\sqrt{a^2 + b^2} + a}{2} \right)^{1/2} \quad (15)$$

$$\beta = \left( \frac{\sqrt{a^2 + b^2} - a}{2} \right)^{1/2} \quad (16)$$

を得る。